

準天頂衛星システムについて

内閣府宇宙開発戦略推進事務局

H31年度概算要求額 273.8億円
(H30年度予算額 153.4億円)
対前年度78%増

資料
1-1

- 日本版GPSとも呼ばれる我が国独自の衛星測位システム。
- GPSの補強信号を生成し、センチメートル級の高精度衛星測位を実現（GPSは5～10m）。
- 本年11月に4機体制でのサービス開始予定。自動走行、農業、物流、防災分野等への利用が期待される。
- 平成35年度をめどの7機体制による持続測位の確立と機能性能向上に取り組む。

■ 宇宙基本計画
 (平成27年1月宇宙開発戦略本部決定、平成28年4月閣議決定)
持続測位が可能となる7機体制の確立のために必要となる追加3機については、平成29年度をめどに開発に着手し、平成35年度をめどに運用を開始する。』

■ 経済財政運営と改革の基本方針2018
 (平成30年6月閣議決定)
準天頂衛星システムについて、7機体制の確立と機能・性能向上を図り、G空間プロジェクトと連携しつつ、先進的な利用モデルを創出する。

準天頂衛星システムの軌道

日本のほぼ真上(準天頂)に1機あたり約8時間滞在(下図は7機体制イメージ)



スケジュール

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
2、3、4号機	■	★ ★ ★	■					
初号機 後継機					★			
5号機 機能性能向上							★	
6、7号機 機能性能向上								★ ★

4機体制 4機体制 7機体制
 確立 サービスイン 確立